



# アフリカの民話

～ティンガティンガ・アートの故郷、タンザニアを中心に～

AFRICAN FOLK TALES

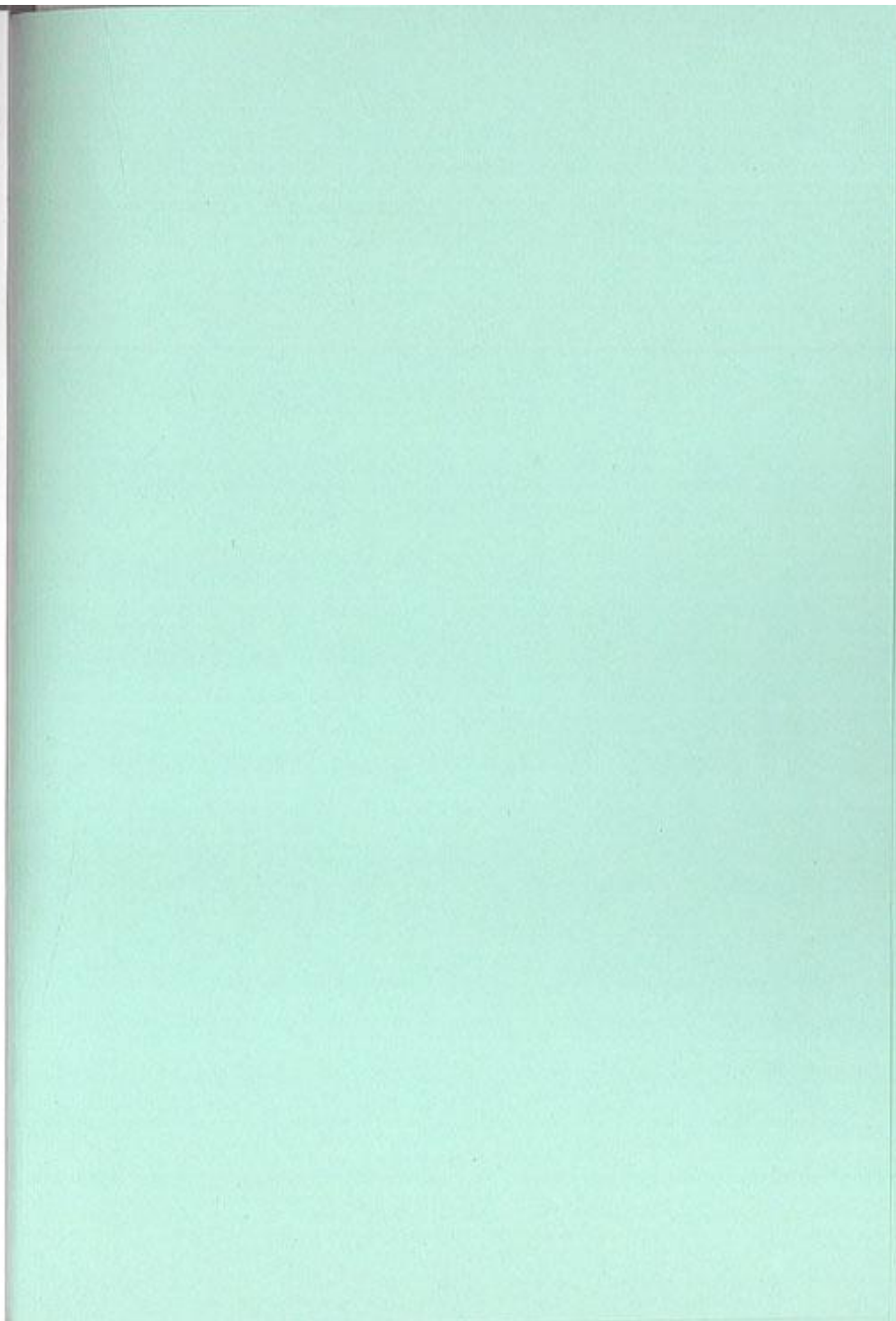
島岡由美子 文・写真 モハメッド・チャリンダ 絵

////////////////////////////////////  
**アフリカの民話** AFRICAN FOLKTALES

～ティンガティンガ・アートの故郷、タンザニアを中心に～

////////////////////////////////////  
島岡由美子 文・写真  
Shimaoka Yumiko

モハメッド・チャリンダ 絵  
Mohamed Charinda



はじめに	5
心臓とひげ	7
猿女房	14
泥から生まれたどろんこ娘	24
わがままシモンジャ	33
水を盗んだウサギ	40
屁こき女房	49
キジのほら穴	55
うそつきしゃれこうべ	61
もの食わぬ女房	68
蛇に食われた娘	74
テンデとメンデ (ナツメヤシとゴキブリ)	82
親不孝鳥チクエベ	86



アートディレクション・DTP 飯塚治

猿と亀の友情が終わった日	90
七つの頭を持った蛇	94
ヤシの木に登った十一人の息子	105
きれいになりたかった蛙	113
ハチとハエ	117
ザンジバルーの力持ち	120
魚屋になった猫	125
七色の鳥になった娘	130
母からのみやげ	144
死の刻印	151
アフリカ民話を楽しく読むために	159

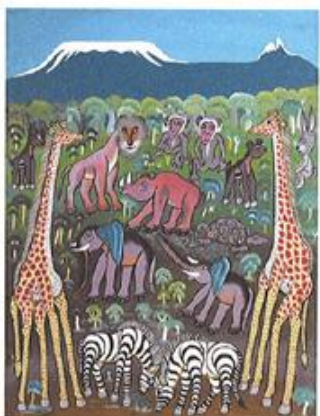


はじめに

アフリカでは、昔も今も、昔話とは、読むものではなく、人から人へ、語って聞かせ、伝えるもの。だから、昔話はいつも、語り手の「パウカー」(\*お話始めるよ)と、聞き手による返事「バカワー」(\*はい)というかけあいから始まります。

さあ、それでは、お話をはじめましょう。

第一話は、心臓とひげが主人公という、世にも不思議なお話です。



## 心臓とひげ

語り手「パウカー」(\*お話し始めるよ)  
聞き手「バカワー」(\*はい)

ハボ ザマニザカレ(\*むかしむかし、あるところに)、心臓とひげがおりました。

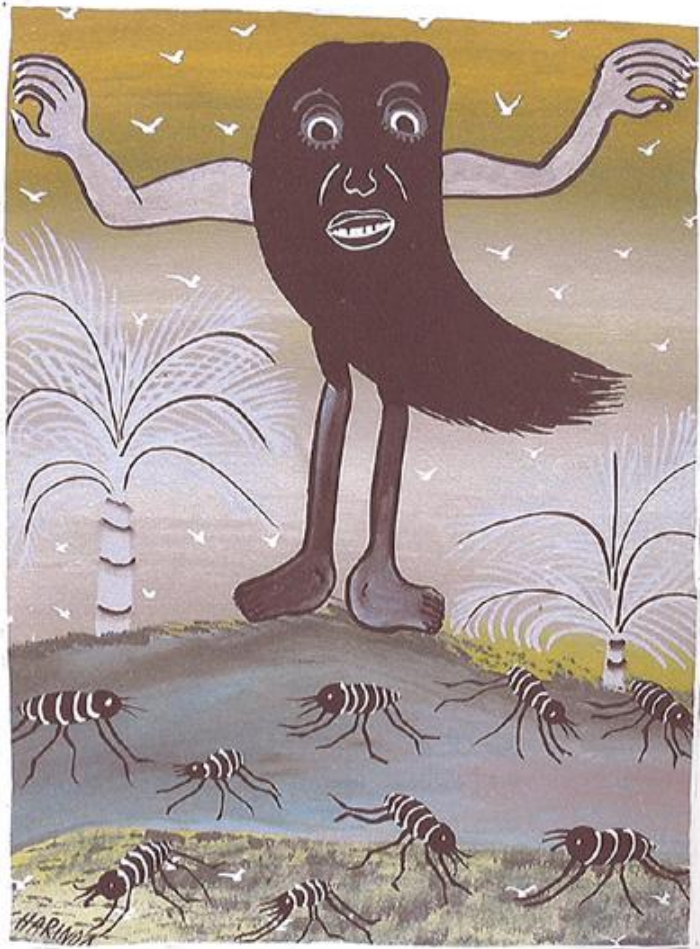
心臓もひげも貧乏で、いつも腹をすかせておりました。

どちらも二十一日間食べ物がみつからず、腹で死にそうになっていたある日、心臓とひげが、道ではったり会いました。

心臓は、空腹をがまんして、

「ジャンボー ハバリヤーコ?」(\*こんにちはは、ごきげんいかがですか)

とかろうじてあいさつしましたが、ひげの方は、あいさつもできないぐらい腹がへつていたので、だまって心臓をにらみつけていました。でも、とうとうがまんできなくなつて、



\*注一【預言者モハメッド】イスラム教の開祖。生涯は、西暦五七〇年頃。

\*注二【ピリヤニ】肉、野菜、香辛料をふんだんに使った炊きこみ飯。ザンジバルで一番の

ご馳走。結婚式にピリヤニをふるまえるのはよほど裕福な家のみ。ピリヤニの写真は、

178ページを参照。

\*注三【カンガ】東アフリカの民族衣装。色鮮やかな綿布。詳しくは、194～197ページを参照。

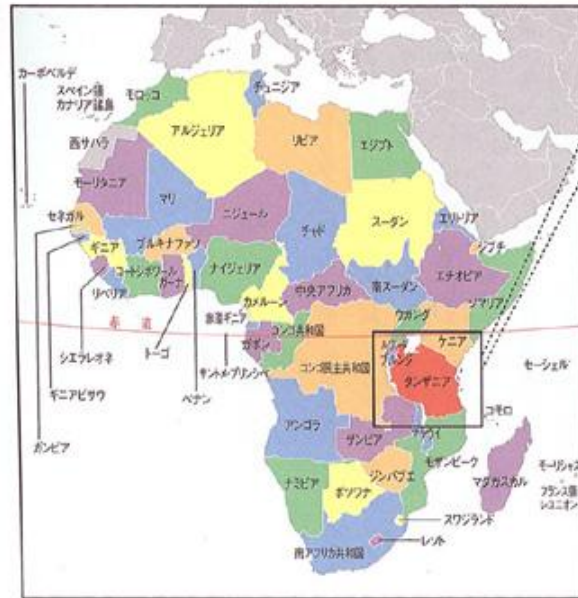
### アフリカ民話を楽しく読むために

この本のお話は、全部私がアフリカの人々から聞いたお話で、元の言語は、タンザニア、ケニアを中心に、ウガンダ、ブルンジ、ルワンダ、モザンビーク、コンゴの一部など、広い範囲で使われているスワヒリ語です。

民話の中には、その土地の人々が考えていることはもちろん、風土、歴史、慣習など、いろいろなエッセンスが詰まっています。私自身が自分の耳で聞いたアフリカの民話を紹介する中で、日本のみなさんにも、ぜひアフリカ民話の楽しさを味わっていただきたいという思いと、民話を切り口にして、アフリカのことを考えるきっかけにしたいだけだからという願いを込めて、本にしました。

お話を聞いた場所は、私が、一九八七年から住んでいるザンジバルや、タンザニア本土が中心ですが、アフリカは古来よりさまざまな部族が大陸内を移動し、入り混じりあいながら今日に至っているという性格上、現在、地図上で表わされる国という概念ではとらえきれないことが多く、現在の国が形作られる前から語り継がれてきたであろう内容も多いため、あえて、書名は、「アフリカの民話」としました。

挿絵は、タンザニアのティンガティンガ・アート。ティンガティンガとは、創始者エドワード・サイデ



イ・ティンガティンガ（一九三二—一九七二）の名前に由来し、六色のペンキを使って織りなすカラフルな色彩で、タンザニアの豊かな自然や動物、人々の生活を明るく描くことで有名なファイブ・アートです。この本の挿絵は、創始者ティンガティンガ亡き後、長年ティンガティンガ・アートの屋台骨を担ってきた占参アーティストの一人、モハメッド・チャリンダさんに描いてもらいました。

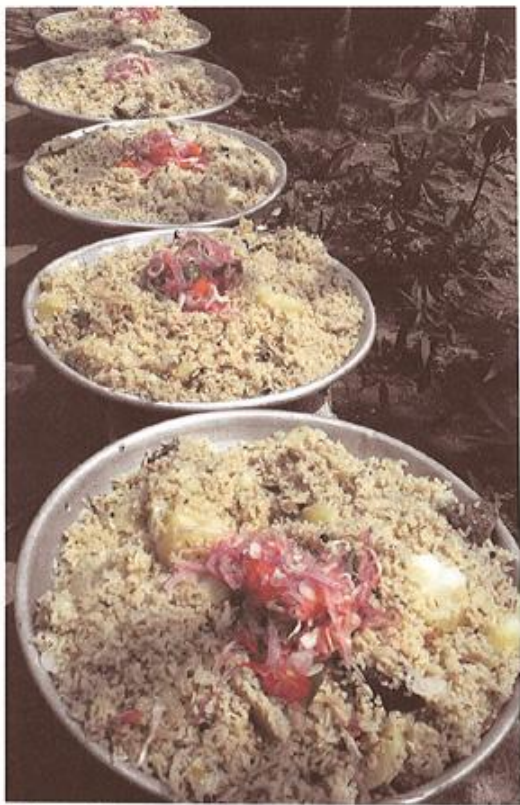
本の挿絵を描いてもらうためには、私が集めた民話を、チャリンダさんにスワヒリ語で語って伝えるという作業をしなくてはならなかったのですが、すでにおじいさんであるチャリンダさんに向かって、つたないスワヒリ語で、「むかしむかし、あるところに……」と語るのには、少々照れくさいものがありました。でも、チャリンダさんは、とても熱心に、ノートに一篇一篇メモしながら聞いてくれました。また、チャリンダさんは、語り手でもあり、興に乗ると、自分の生まれ故郷、トンドゥール地区にあるナカパニヤ村のお話を語ってくれ、今度は私が楽しくお話を聞きながら、メモを取るといふ感じで、世代も、国境も超えた民話好き同士の友情が芽生える中で、この本ができました。

ザンジバルは、一九六四年にタンガニーカとザンジバルとが連合してタンザニア連合共和国になる前は、東インド洋を牛耳ったアラブのオマーン帝国の首都でもあり、奴隷貿易港として栄えたという、アフリカの中でも独特の歴史を持つアラブの影響の濃い島です。

その当時に形成されたオールドタウンは、まさに当時のアラブの街並みそのもので、車も通れないような狭い道は巨大な迷路。美しい彫刻が施されたアラブアが並ぶ家並みを歩いていると、子どもの頃に読



嫌いは、ザンジバルでも多いようで、語り手のファトゥマさんが、  
 「トウメー、蛇が手を噛んでいるの。  
 助けて、母さん。母さん、助けて」  
 と繰り返すたびに、聞いている子どもたちから大きな悲鳴があがっていました。

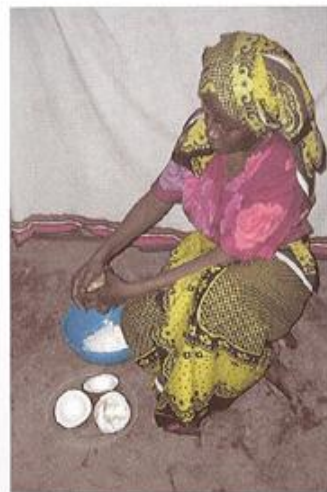


結婚式のご馳走。肉、野菜、香辛料の炊きこみ飯、ピラウ



アフリカの揚げパン、マンダジ

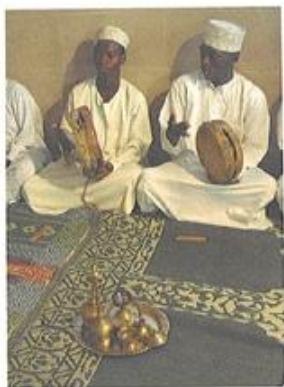
チャパティ、ムチュジ (カレースープ)、キ  
 ャッサバイモのココナッツミルク煮、バジア、  
 カイマティ



高級炊き込み飯ピリヤニ、タマネギとラ  
 イムのサラダ・カチュンバリ

ココナッツの実を削ってできるマチチャを絞  
 ったものが、ココナッツミルク

儀式に用いられる香炉や用具も金色



テンデ (ナツメヤシの実) のドライフルーツ



市場でも人気が高いテンデ



金細工の装飾が美しい花嫁



9784906909001

ISBN978-4-906909-00-1

C0098 ¥1500E

定価：本体1500円+税



1920098015009

株式会社バラカ



Baraka 